

**「地域の子どもを地域が守る体制」
学校運営協議会とスクールサポート隊等との相互連携
～一体的実施による学校・地域の課題解決～**

発 表 者 金沢市立大浦小学校 校長 加藤 雄一
学校運営委員会委員(スクールサポート隊々員) 高桑 真一
前学校運営協議会委員(スクールサポート隊々長) 平 寿彦

学校所在地	児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員等数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
石川県金沢市	357名	平成29年度	12名	3回	2名

学校教育目標

「かしこく、やさしく、たくましい子の育成」・めざす学校像「みんなが行きたくなる、笑顔とありがとう、あいさついっぱい为学校」

学校・地域の特徴

本校は広い校区を持ち、子どもたちはかなり長い距離を歩いて通学する子が少なくない。校区は水田が広がり、川も多い自然の多い環境にある。

そんな中、スクールサポート隊は、子どもたちの安全な登下校のために、危険と思われる場所に立ち、毎日の登下校を見守ってくれている。

学校運営協議会の概要

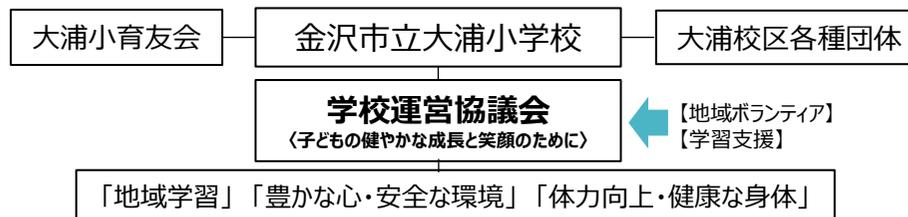
委員の構成

- ・公民館長
- ・校下連合町会長
- ・防犯交通連絡協議会長
- ・校下こども園園長(2園)
- ・校下青少年健全育成協議会長
- ・スクールサポート隊代表
- ・校下少年連盟委員長
- ・育友会長、副会長
- ・学校医(薬剤師)
- ・学校長

これまでの主な議題例

- ・学校経営方針
- ・学校評価
- ・授業参観
- ・教育課程に係る地域教材発掘
- ・通学路安全点検
- ・防災教育
- ・児童の安全な登下校環境の在り方
- ・教員の働き方改革 他

組織図



〈地域とつながる 地域から学ぶ 地域とともに考える〉

地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

- ・1年 伝承あそび
大浦の民話しようかい(まちの名人さん)
- ・2年 九九ボランティア
- ・3年 木越ふしぎはっけん
木越みちるべ
茶道体験の先生(まちの名人さん)
- ・4年 防災学習
- ・5年 ミシン指導
- ・各方面通学路点検
- ・避難所体験



1. 学校安全・防災に関する解決すべき課題

(1) 年間計画

2. 学校運営協議会とスクールサポート隊との関わり

(1) スクールサポート隊のこれまで

(2) スクールサポート隊の学校支援

3. 事例① 通学路点検の取組

4. 事例② 夏休み避難所体験の取組

5. 成果と課題

突発的な自然災害→**想定外の地震と被害**

校区をわける幹線道路→**交通事故の危険**

海拔が低い土地が広がり、川が多い校区→**水害の危険**

予測がむずかしい

**学校が、地域が、
いかに地域の子どもを守ることができるか**

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校運営協議会			第1回 学校経営方針の承認						第2回 授業参観 学校の取組・評価の中間報告			第3回 取組の検証・まとめ	
		取組の確認							取組の確認				
取組の実際	学習			2年 まちたんけん			3年 大浦ふしぎ発見	3年 木越まちしるべ		2年まちたんけん		1年伝承遊び	
			5年 米作り(代掻き・田植え・稲刈り)体験				5年 野菜ソムリエ(加賀野菜)		3年 茶道体験	2年九九ボランティア	2年 民話	3年 和菓子づくり	
	安心・安全		1年 交通安全教室	引き渡し訓練(土曜参観)	3年 自転車教室	集団 下校訓練	夜間 パトロール	4年 防災学習			集団 下校訓練		不審者 対応訓練
	豊かな心 安全な環境	登下校見守り(サポート隊) Mネット(見守り)活動(育友会) あいさつ運動(育友会)											
	健康な身体			栄養指導						歯科指導			学校保健委員会
	体力向上 健康な身体			わくわくタイム(縦割り活動・異学年交流)									
		各学年 プロスポーツ体験											

学校運営協議会が関わっている活動

平成13(2001)年10月結成

- 大阪教育大付属池田小事件発生を機に、全国で初めて結成 スタート時総勢45名
- 発足から、前後期1回程度、学校とサポート隊隊員(隊長、支隊長)との懇談を行い、子どもたちの安全確保のための情報交換を行う。
- 学校運営協議会発足(平成29年度)に伴い、スクールサポート隊長が学校運営協議会委員となることで、懇談会は発展的解消となる。
- 現在、学校と適宜連絡を取り合い、登校時と下校時の見守りを分担し、子どもたちの安全確保につとめる。現在64名。

○毎日の見守り活動

・登校時と下校時に、通学路の途中の交通安全上配慮が必要な地点十数カ所立ち、子どもたちの安全を見守る。そこで気づいたことは適宜学校と情報を共有し、指導に役立てている。

○職員玄関での警備、安全確保

・毎週、不定期に大浦小学校職員玄関でサポート隊隊員が不審人物侵入防止のための警備を行う。学校とサポート隊との日常的な情報交換のよい機会にもなっている。



職員玄関での警備

登下校の見守り活動

○1年生の交通安全教室

- ・入学時、登下校に慣れていない1年生を対象に、独自に交通安全教室を実施。
- ・横断歩道の渡り方や、不審者に出会った時の対応などを知らせる。

○あかつき遠足 運動会の安全確保

- ・育友会行事である「あかつき遠足」では、目的地の内灘海岸までの道路横断の誘導等、参加者の安全を見守る。
- ・運動会では周辺道路の交通整理、不審者侵入防止に向けて取り組む。

○不審者対応訓練

- ・毎年、1月10日(110番の日)に大浦小学校で、学校職員とスクールサポート隊、地元の警察署が参加し、不審者対応訓練を行う。

新入生交通安全教室



あかつき遠足 安全確保



不審者対応訓練



みずき・木越方面通学路点検～実施に至る経緯～

1月1日 能登半島地震発生→被害状況確認→安全確認

4月 ～サポート隊隊長よりコーディネーター※(防災士)へ

「元日の地震もあったので、改めて子どもたちの通学路が安全か、危険がないか調べたい。」

「危険が確認された場合、安全のため通学路の変更も提案したい。」

6月 4日 コーディネーター、隊長が学校・育友会(PTA)に相談する。
学校と地域で考えていくべき課題ではないか。

6月13日 学校運営協議会

通学路の安全について問題提起

- ・校区内危険箇所について意見交換
- ・液状化現象も見られたことを確認
- ・地震もあるが、この地域は海拔が低い。そのことも考慮すべきであるとの意見も出される。
- ・子どもたちに関係ある幅広い人たちの声も聞き検証する必要があるとの意見

→今後、通学路点検を行うことを確認する。

・関係団体との日程調整等は委員(コーディネーター※)が行う。

8月 3日 関係者で通学路変更も視野に入れて点検を行う



校区内での被害

※地域学校協働活動コーディネーター

事前調査(みずき・木越方面)

○通学路の交通量調査

- ・コーディネーター・サポート隊による調査を行う。
- 規制区間にも拘わらず、児童登校時の自動車通行量が多いことがわかる。**

○地元警察署の協力

- ・規制第一係に聞き取り・指導を受ける。
- 警察官以外が走行中の車をとめることはできない。プラカード等で知らせる方法がある等、指導を受ける。

- 8月3日の検討会には、これらの情報も提供し、通学路点検を行う。**



時間進入規制がかかっている
(7:30~8:30)



通学路の交通量調査

(単位:台)

	金沢方面から	内灘方面から
6:45~7:00	2	3
7:00~7:15	1	1
7:15~7:30	3	8
7:30~7:45	5	12
7:45~8:00	8	12
合計	19	36

通学路点検・検討会

1. ブロック塀の危険性について学習
(講師:校下防災士 二角氏)
2. 通学路点検(実地点検)
3. 点検結果について情報交換
4. 危険箇所共有→新ルート提案



検討会の様子



通学路点検(実地点検)



通学路点検・検討会

参加団体等

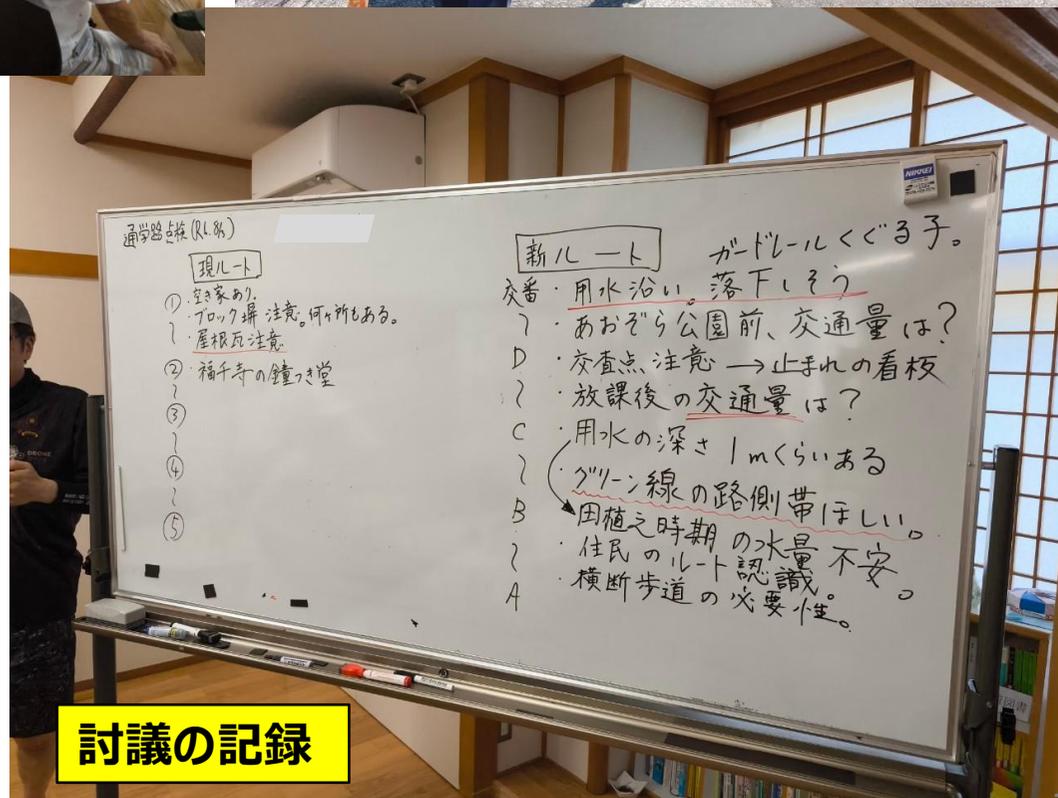
大浦小育友会
 スクールサポート隊
 防犯交通連絡協議会
 木越団地自治消防団
 木越団地子ども会
 大浦校下防災士会
 みずき自主防災会
 学校運営協議会
 パスママスクラブ(父親母親クラブ)
 その他、地域の子どもたち 計20名



検討会の様子



通学路点検(実地点検)



討議の記録



右上から



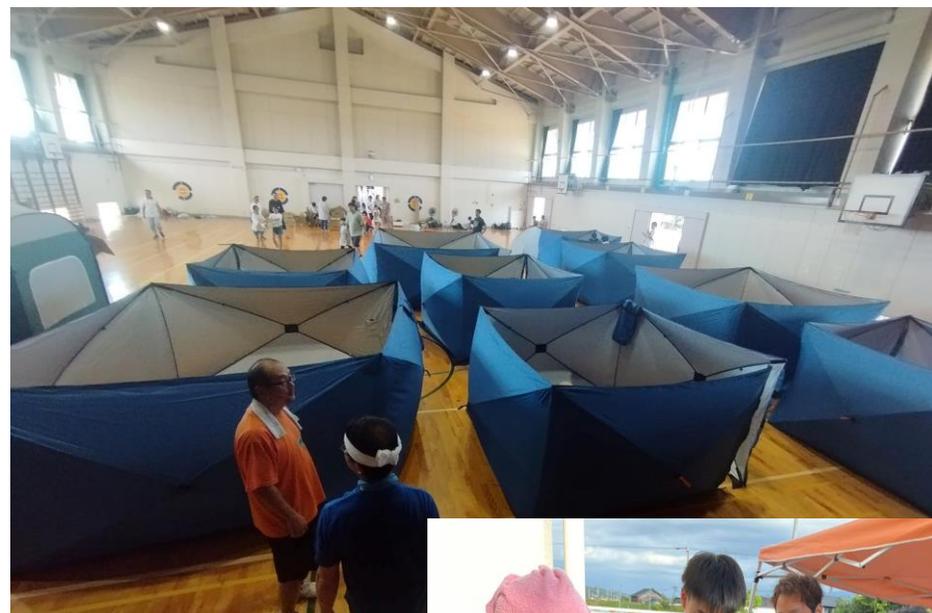
～2023年8月実施～

学校運営協議会にて提案

(青少年健全育成協議会・防災士会)

○ 平時に子どもたちに避難所体験を

- ・パーティションの中での宿泊体験
- ・段ボールベッドの作り方
- ・レトルト食品での夕食



パーティション設営

課題

- ・夏休み中、参加児童を募る工夫。
- ・パーティション(テント)の数は足りるか。
- ・運営する人員の確保。
- ・熱中症等で体調を崩さないための対策。
- ・感染症対策



資材を出して夕食準備

対応策

興味を持ってもらうために

- 実際の避難所グッズを可能な限り使用する。
- 避難所体験 = 学校に泊まろう、とし、防災意識を育てるとともに、子どもが興味を持ちそうなイベントも設定する。
- (肝試し・ドローン体験・水遊び、等)

運営人員確保のために

- 夏休み前に学校運営協議会委員(防災士)が育友会と協議し、パパスマスクラブの協力を取り付ける。
- 地区の防災士会に働きかけて協力依頼する。

体調管理のために

- 大型扇風機を用意し、風通しをよくする。
- 冷房の効く部屋も用意する。
- テントの間をできるだけ開けて配置する。



防災倉庫より資材搬出



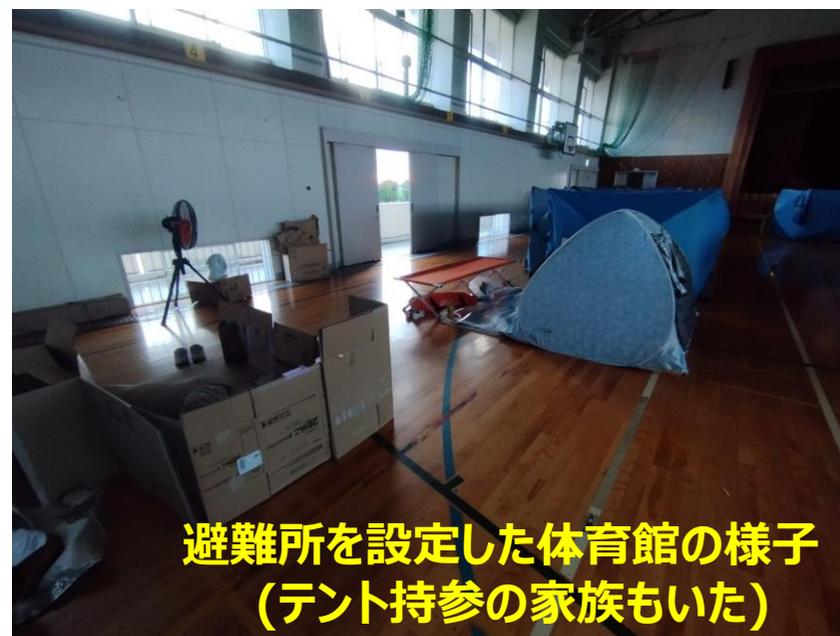
間隔を空けて設営



段ボールベット製作



夕食準備



避難所を設定した体育館の様子
(テント持参の家族もいた)

成果

- 学校運営協議会は、学校及び学校と地域に関する課題を共に解決する場
- スクールサポート隊は、様々な面から学校安全・防災に貢献している。
- 学校運営協議会委員に、防災士が存在する利点

課題

- ◆ 地域防災の要として、地域の防災士のネットワーク等も生かして、今後どのように取り組んでいくか。
- ◆ 地域学校協働活動との相互連携を生かして、学校と地域を結ぶハブとして、どのようにつながりを生かしていくか。